

認知症の中核症状

障害	症 状
記憶障害	新しく経験したことを覚える。覚えたことを保持する、以前学習した事を思い出すことが困難になる
失行	運動障害はないのに意図した動作や支持された行動が行えない
失認	見えていても色・物の形・用途や名称が分からないなど視覚・聴覚・触覚を通じて対象が何かを判断できない症状 【視覚失認】・・・日常使っているものを見ただけではそれが何か理解できない 【触覚失認】・・・日常使っているものを触ってもそれが何か理解できない 【聴覚失認】・・・電話や犬の鳴き声が聞こえてもそれが何の音か理解できない 【相貌失認】・・・よく知っている人の顔を見ても誰なのか理解できない
失語	声は出るが物の名前が出てこない。耳は聞こえるが話の意味が理解できない、字が読めない、書けないなどの症状が出る
実行機能障害	生活するうえで必要な情報を整理・計画・処理していく一連の作業が困難。その結果として生活上起こる様々な問題を決定していくことが困難になる。 料理をすることが出来ない 献立をたてることが出来ない 包丁の握り方、切り方が判断出来ない等
見当識障害	時間・場所・人物や周囲の状況を正しく理解することが困難になり、日時や季節が分からない、今いる場所、家族や周りの人が分からないといった症状が出現する。 一般的に時間 場所 人の順で見当識が障害を受けることが多い。 【時間の見当識障害】・・・今の場所が分からない、季節が分からない等 【場所の見当識障害】・・・家に帰れない、トイレの場所が分からない等 【人物の見当識障害】・・・娘を「お母さん」と呼んだりする等

認知症の種類

アルツハイマー認知症

脳全体に萎縮が認められる。脳内物質のひとつアセチルコリンの減少、また神経細胞の欠落があり、脳全体(主に大脳の後半部)の神経細胞が次第に変化することで発症。ゆっくりとした進行が特徴で記憶をつかさどる海馬領域に高度な変化を認める。

【初期】・・・近時記憶が顕著に障害を受ける 通常物忘れから始まる。

【中期】・・・失語、失行、失認、見当識障害など日常生活動作に支障をきたす。

【末期】・・・無動、無言、無反応症状となり、寝たきり 多くが合併症を伴い死亡

